

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2395号 2018年02月13日(火曜日)

《 Is confidence coming back ? 》

束の間かも知れませんが、日本時間 13 日の午前 6 時に終わった週明けのニューヨーク市場を見て「戻った」と思うのは「安定」です。それが一番良く分かるのは VIX 指数の一日の動き。寄り後暫くして上げているが、その後はニューヨーク時間の午前 10 時半くらいからはほぼ一貫して下げ続け、引けは 25.61。先週末比 3.45、11.87% の下落。先週のマーケットで 40 近くがあったことを想起すればニューヨーク市場の週明けの安定ぶりが際立つ。

株式市場の動きをダウで追ってみると、一日の動きはチャートの VIX 指数と逆。高寄りから暫く下げて、しかし先週末引値に接近する前に上げに転じて、その後は上昇。引け際に利食われたのかやや下げて(それが VIX の引け際小反発に繋がった)、結局引値は 24601.27 ドル。先週末比 410.37 ドル、1.70% の上げ。他の代表的指数も軒並み高。

為替市場の動向をドル・円を代表選手として見て見ると、週明けの一日は一貫して 108 円台の、半ばを中心とした動き。ドル・円の引値は 108 円台の半ば。債券市場を指標 10 年債(ウォール・ストリート・ジャーナルの数字による)で見ると引けは 2.859% で、これは先週末に比べ 0.005 ポイント高とほぼ保ち合い。一日のレンジを利回りで見ると 2.828~2.896% で高水準安定という感じ。チャートを見ても荒れた時間帯はない。

これでニューヨークの株式市場は二営業日連続の上昇で、その上げ幅の合計は 1000 ドルには達しないが 500 ドルは超えて、「2 連続営業日の上げ」に意味がありそうな展開だった。何がこの「(束の間かも知れないが) 安定」をもたらしたのか。多分それはマーケットが自ら体重調整したためだと思う。一般的に言われる自律調整だ。記事に中味がないものになるので、マーケット関連の記事は上げてても下げててもあれやこれやの理由(材料)を挙げる。むしろそれらはそれぞれ意味があるし、調整の切っ掛けにはなっているが、マーケットが自ら体重調整の時期に来ている時に切っ掛けになっているケースが多いように思う。

今回の場合はトランプ政権になってからのニューヨーク株の上げがそれまでより加速し、直近は減税措置なので一段と加速していた。体重調整の可能性はそもそも高まっていたと言える。例えばこの週明けにはトランプ政権の予算教書が発表され、共同通信はワシントンからそれを「米予算教書、財政黒字化を断念 10 年で赤字 770 兆円」との見出しで以下のように報じている。

「トランプ米政権は12日、予算編成方針や経済・財政見通しを示す予算教書を議会に提出した。国防費をはじめとする歳出を増やす半面、政権公約の巨額減税を実施したことなどに伴って歳入の見通しを引き下げたため、財政収支の黒字化を断念した。2019会計年度（18年10月～19年9月）から10年間の赤字総額は7兆950億ドル（約770兆円）に上ると見込んだ。昨年5月に公表した初の予算教書では27年度の黒字化を見込み、10年間の赤字総額は3兆1500億ドルにとどまると予想していた。経済成長の加速には財政悪化もいとわない政権の姿勢が浮き彫りになった。」

これは通常考えると債券市場や株式市場には悪材料で、債券市場では利回りが上昇し、株式市場では株価が下がってもおかしくない。しかし月曜日のマーケットは静かだった。織り込み済みということは言えるかも知れないが、それはニューヨークの市場が体重調整をしたあとなので、冷静に受け止めることが出来たと言えると思う。

《 no more same 》

しかしだからといって、日本で盛んに言われた「適温相場」に直ぐに戻るかと言えば、それは違うだろう。ニューヨークの株式市場の週明けの動きを見ても、やはり引け際はダウで500ドル以上上げていたところから反落して400ドルちょい高で終わっている。この2週間ほどの間に何回も「引け際の30分で大きな下げ」を経験した「引け際恐怖症」が出かけたとも理解できる。日本にとってもドル・円は週明けにおいては安定していたが、「ドルが108円を割った時」を考えざるを得ない状況・水準は続いている。

一つ一つは書かないが、トランプ政権の政権基盤は一年たった今でも不安定で、中間選挙接近の中で何をするか分からない状況が続いている。今年は去年のような体重を気にせずに食べまくった（株を買えた）年とは違う展開になる事は明らかだ。

月曜日まで備忘で含めると、今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|---|
| 02月12日（月曜日） | 米政府19年度予算教書を公表
インド1月消費者物価指数
休場＝日本、ブラジル |
| 02月13日（火曜日） | 1月国内企業物価指数
米1月財政収支
休場＝台湾、インド |
| 02月14日（水曜日） | 10～12月GDP
タイ中銀金融政策決定会合
1月首都圏マンション発売
独10～12月GDP
米1月消費者物価 |

	米 1 月小売売上高
	米 12 月企業在庫
	休場=ベトナム
0 2 月 1 5 日 (木曜日)	12 月機械受注
	インドネシア中銀政策金利発表
	米 1 月生産者物価
	米 1 月鉱工業生産・設備稼働率
	米 2 月 NY 連銀製造業景気指数
	米フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
	米 2 月 NAHB 住宅市場指数
	米 12 月対米証券投資
	休場=中国(春節、～21)、韓国(～16)
0 2 月 1 6 日 (金曜日)	米 1 月住宅着工件数
	米 1 月建設許可件数
	米 1 月輸出入物価
	米 2 月ミシガン大学消費者マインド指数
	北朝鮮故金正日総書記生誕 76 年
	休場=香港(～19)、シンガポール、マレーシア、 インドネシア、フィリピン

この中ではやはり「米 1 月の消費者物価指数」が注目だろう。直近 1～2 ヶ月の米インフレ率は 1.7～1.8%になってきていて、目標の 2%に接近している。今年 1 月の統計が目標にさらに接近するのか、それともまた 1.5%の水準に収斂する方向に行くのか。マーケットにとっては大きな関心事だ。発足したパウエル議長率いる FRB にとっても大きな政策決定ポイントになる。

《 have a nice week 》

3 連休はいかがでしたか。寒い日の連続でしたし、日本海側の多くの地域では再び「冬の嵐」が猛威をふるっている。その嵐の延長線上で考えられるのが平昌の荒れた天気です。強い、そして気むらのある風。競技によっては選手のかなりの部分が空中で煽られて着地すら難しかった。観客は夜には会場を去るし、「(開催場所自体や開催時刻など) これで良かったのか」という気もする冬のオリンピックだ。

そうした中でも競技は続けられ、日本勢はこれまでメダルに遠かったが、月曜日になって 3 個のメダルを獲得した。銀 1、銅 2。まずは良かった。一番心配していたのは高梨沙羅さんでした。最後のジャンプはこちらも緊張しました。ノルウェーのルンビとドイツのアルトハウスが普段の実力を出す中で、サラちゃんも「今の力通りの飛びが出来た」というの

が良かったし、彼女もそれに納得しているようだった。

高木美保選手の 1500 メートルはほんとうに惜しい銀。一位と 0.2 秒差。本人も悔しそうでしたが、それでも 3000 メートルが本人にとって悔しすぎたということで、僅差の銀メダルには彼女としても満足している様子だった。次は 14 日ですか。左右異なる色の眼鏡が印象に残った小平奈緒選手（1500 は 6 位）とその高木美保選手が揃って 1000 メートルに出る。二人のワンツー結果を期待しましょう。

それにしてもスピードスケートでのオランダの強さは「依然として」という印象。あの長い手と長い足、そして体力を存分に使っている印象がする。その点短距離は日本の選手にもチャンスあり。1000 メートルではオランダ勢を上に乗れないで欲しい。男子のモーグルはあまり長い時間見た記憶がないのですが、女子とは違ったスピード感がウリだと思いました。滑りも機敏で原選手には勢いがあったように思う。試合が終わった後の「これでやっと親孝行が出来る」というインタビューでの発言が、なにか古風で笑えた。あのにこやかな顔で、満足そうに語っていたのが印象的でした。

- - - - -

この 3 連休は月曜日にテレビの仕事が入っていたりしてずっと東京にいたのですが、中日の日曜日には伊豆大島にジェット船で行ってきました。日帰り。名前に「伊豆」が付くけどそこは東京都の領域で、島を走っている車は皆「品川ナンバー」。しかし植生はむしろ南国に近く、道路を覆うように木が茂っている…… といろいろな印象が残りました。

竹芝桟橋を午前 8 時 10 分にジェット船で出て 2 時間弱。乗った人数と降りた人数が合致することを確認するためのチケット回収があって（帰りもそうです）、その後上陸。大島でもの凄く大きな噴火があって島民全員 1 万人が避難したのが 1986 年 11 月でした。避難が長引いたこともあって、その後島に戻らなかった人が数多かったようで、今の人口は 7000 人強だと資料に出ていました。当時の生々しい記録は今でもネット上に残っている。

三原山は車で行けるところまで行って、その後は片道 40 分ほどの道を歩いてお釜を目指したのですが、とにかく風が強かった。体をもっていかれそうになった。改めて思ったのは「今でも実に荒々しい山だ」ということ。残り雪が登山道にもあったし、今でも「熔岩は幾筋にもなってお釜からこう流れたんだ」と分かる。熔岩は含有する成分もあって黒い岩になる。それが連なって川を作るのです。風が強かったこともあって、登り道も多く 40 分の歩きもつかった。

お釜は日本各地の火山に数多あるのですが、三原山のそれは阿蘇山ほどではないが、大きな印象がした。どこまで「お釜」と呼ぶのか知りませんが。地球の呼吸にとっては 1986 年なんてつい先日のようなものでしょうから、いつ「明日」があるかも分からない。あまりの風に早々に撤退し、その後は三原山の中腹にある温泉ホテルでひとつ風呂。登山のあとは気持ちが良い。露天からは三原山が真正面に見える。穏やかそうな山なのに、噴火となれば人間を追いかける溶岩流を生むんですね。

桜とか椿とか思ってた行ったが、見れなかった。時期が行った場所が悪かったのか。またの

機会です。食べ物では「べっこう寿司」がうまかったな。びりっとからくて、しかし全体的にはまるやか。不思議な寿司です。今度は一日泊まっても良いなと思いました。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》